

【会長賞：中学生の部】

「生きやすい世の中」

滋賀県・栗東中学校  
1年 東山 風花さん

小学生の時、学校に障害のある方に来ていただいて、お話を聞く機会がありました。Kさんという方で、歩いたり、話したりする事に少し不自由がある方でした。Kさんは障害者というだけで特別な目で見ないでほしいという事、そして、不自由があっても自分で出来る事は何でも自分でしたいという事を話されました。障害のある方を見て、すぐにお手伝いをしようとする気持ちは、とても良い事だと思います。でもKさんの

「手伝って下さいとお願いしたら、手伝って下さい。」という言葉に、あたり前の事ですが、障害のある方が何も出来ないわけではないという事に改めて気付かされた気がしました。

Kさんのお話を聞いてからしばらくして近所のスーパーでベンチに座っているKさんを見かけました。私が近づいて手を振るとKさんもニッコリ笑って手を振ってくれました。

障害のある人でもない人でも、その人を知るといふ事はとても大事な事だと思います。もし、小学校でKさんに出会っていなければ、もっと違う目で彼を見ていたかもしれません。話を聞いたり、質問をしたりしてKさんを知る事ができたから、何の迷いもなく手を振れたのだと思います。

人を見えている部分だけで理解する事は出来ないと思います。その人と触れ合って初めて分かる事もあるはずです。目に見える障害だけではなく、目に見えない障害もあります。私は小さい頃、幼稚園や学校では話せませんでした。家では普通に話せているのに、外に出ると強い緊張と不安で声が出せませんでした。声が出せないだけではなく、体も動かさずに固まったように立ちつくしている事が多かったのですが、いつもクラスのみんなが私を手伝ってくれました。私は今でも学校で何かをする時、どうしたら良いのかがわからずに不安になる事があります。

国語の本読みの時間には、私の番だけ先生が読んでくれました。

先生に伝えたい事がある時は、友達がかわりに言ってくれました。

思い通りに話せなかった私でしたが、みんながそれを知っていて、受け入れてくれていたように思います。

誰かと知り合う時、自分と違う部分を拒否するのではなく、それがその人だと受け入れられたら、見えない障害で困って

いる人も、もつと暮らしやすくなると思います。

以前テレビで文字を認識できないという障害をとりあげていました。その障害は本人以外には理解しづらいという事もあって、小さい頃から誰の手助けもなく努力をして、大人になってからも仕事をする上で苦勞をするということでした。

私は社会全体がもつとその障害について知っていれば、彼らが授業を受けたり、仕事をしたりする上で困らない方法がたくさん見つかるのではないかと思いました。

見える障害も、見えない障害も、受け入れられるようになるためには、知識として色々な障害について知っておく必要があると思います。

例えば、文字が認識出来ないのは脳の構造によるものだそうです。脳の構造は本人の力でどうにかなるものではありません。そう考えると、変わらないといけないのは彼らではなく、社会全体ということが分かります。

みんなが、自分と人との違いを受け入れられるような、生きやすく、やさしい社会になってほしいと思います。